



第73回

がんばろう！栃木 秋季特別展 【川瀬巴水 - 栃木からの旅路 -】

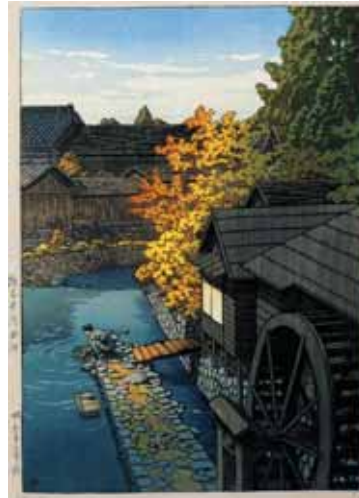
川瀬巴水（1883 - 1957）は、全国を旅してまわり、日本各地の風景を版画に残しています。中でも栃木県を描いた

風景版画の数は多く、故郷のように親しんでいた塩原や、塩原に隣接する河西町や佐久山（現大田原市）に加え、日本有数の景勝地である日光がその主題に選ばれています。

図は、「栃木県河西町」と題がついていますが、現在の栃木県大田原市黒羽向町です。当時、那珂川の西側一帯のこの地域は川西町と呼ばれていました。巴水は塩原に疎開している時期に何度かここを訪れています。

昭和19年10月下旬に来た時には、明治時代創業の花月旅館に宿泊し、旅館の部屋や川西町の風景を写生しました。また、翌20年6月には黒羽の雲巖寺に赴いています。このときも花月旅館に泊まろうとしたのですが、満員だったので駅前の米川屋に泊まり、お米4合の支払いのところ、3合に値切ったという話が日記に記されています。戦時中なので現金の支払いより、お米の支払いの方が喜ばれたのでしょう。雲巖寺では、住職が不在だったため、写生をせずに前日の残りのお赤飯のお弁当を食べ、大雄寺を見て帰ったということです。

図の「栃木県河西町」には、小さな川に設えられた大きな水車が描かれています。これはうどんの粉をひく水車です。当時、那珂川支流のこの川沿いには三軒の製麺所がありました。図はその最上流にあった星製麺所の水車です。現在、水車は全てなくなり、製麺所もその星製麺所一軒を残してなくなりましたが、絵に描かれている川に突きだした石の



川瀬巴水「栃木県河西町」（渡邊木版美術画舗蔵）

台は今もそのままの形で残っています。

「川瀬巴水 - 栃木からの旅路 -」の前期では、那須塩原市や大田原市の風景画を中心に、そして後期では日光の風景画を中心に展示します。

今秋は、広重美術館で昭和の美しい栃木の景色をお楽しみください。

馬頭広重美術館

学芸員 長井裕子

【会 期】前期 ~10月16日(日)
後期 10月21日(金)~11月27日(日)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

後期 10月22日(土)午後1時30分~ 当館学芸員

【開館時間】午前9時30分~午後5時まで
(但し、入館は4時30分まで)

【入館料】大人 700円(630円)
高・大学生 400円(360円)

※()は20名以上の団体料金。

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

ミニギャラリー 作品募集！

あなたの作品を出展してみませんか？

写真、絵画、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問い合わせ：
企画財政課広報広聴係

☎0287-92-1114

優秀賞「ふる里」

岡典子さん(北回田)



ミニギャラリー

平成22年度那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品

優秀賞「ささら舞」

佐藤治男さん(真岡市)

